


環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成 23年2月2日

オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名¹⁾			
JA 全農長崎大村果汁工場における、高効率ボイラーの導入と LPG への燃料転換による温室効果ガス排出削減プロジェクト			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	全国農業協同組合連合会 (ゼンコノウキョウキョウトウクミアイレソウカイ)		
住所	東京都千代田区大手町1丁目3番1号		
代表者氏名	平井 信弘	代表者役職	燃料部長
担当者氏名	横田 剛	担当者 所属部署・役職	燃料部 新エネルギー事業推進 室 職員
担当者 E-mail	Yokota-takeshi-z@zennoh.or.jp	担当者電話番号	03-6271-8341
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名			
プロジェクト参加者名			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	全国農業協同組合連合会(ゼンコノウキョウキョウトウクミアイレソウカイ)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認機関			
妥当性確認機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社		

¹⁾ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□(排出削減技術)を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報																
プロジェクト概要 ²	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 JA 全農長崎大村果汁工場において、高効率ボイラーの導入と燃料転換により、温室効果ガス排出量の削減と製造コストの低減を図ることを目的とする。 ・内容: 既設の A 重油焚き炉筒煙管ボイラー(運転効率 83.7%)を LPG 焚き小型貫流ボイラー(運転効率 98.0%)へ更新する。 <p>【適格性基準との整合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー更新であり、条件1を満たす <ul style="list-style-type: none"> ①既存の炉筒煙管ボイラ3台(運転効率 83.7%)を高効率小型貫流ボイラ(予想運転効率(98.0%)へ更新する。 ②既存ボイラー3台は現在も使用中であり、更新を行わない場合は継続して利用可能である。 ③コージェネレーションは導入しない。 ・既存の炉筒煙管ボイラー3台(運転効率 83.7%)を高効率小型貫流ボイラー(運転効率 98.0%)へ更新すること、及び、消費する燃料をA重油からLPGへ変更することにより、CO2 排出量が削減されるため、条件2を満たす。 ・熱・蒸気の外部供給を行っておらず、自家消費される熱・蒸気に関わるCO2排出量のみが対象となるため、条件3を満たす。 ・投資回収年数は9.4年となり、条件4を満たす。 <p>【法令遵守状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防法、労安法、他の規制に対する手続きや実施事項について適切に対応しており、更新にもなう規制に対する手続きも準備されている。 <p>【採用技術】</p> <p>以下の設備を導入する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型貫流ボイラ (SQ-3000AS×3台)</td> <td>三浦工業</td> <td>10年</td> <td>平成23年2月</td> <td>相当蒸発量:3000kg/h 熱出力:1.88MW</td> </tr> <tr> <td>LPGタンク (9.9tバルク貯槽)</td> <td>中国工業</td> <td>6年</td> <td>平成23年2月</td> <td>用途:LPGの貯蔵</td> </tr> </tbody> </table> <p>【モニタリング方法】</p> <p>以下の項目について、モニタリングを実施する。</p> <p>LPG使用量:購買伝票とタンクの液面計による在庫数量の確認により、モニタリングする。</p> <p>更新後ボイラ効率:ボイラ機器管理データによる排ガス損失法により算出する。(JISB8222)</p> <p>更新前ボイラ効率:過去の計測データをもとに計算する。(JISB8222)</p> <p>【GHG算定式の方法論への準拠性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のボイラ更新により、設備容量(熱出力や相当蒸発量)は増加しない。 	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考	小型貫流ボイラ (SQ-3000AS×3台)	三浦工業	10年	平成23年2月	相当蒸発量:3000kg/h 熱出力:1.88MW	LPGタンク (9.9tバルク貯槽)	中国工業	6年	平成23年2月	用途:LPGの貯蔵
	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考											
小型貫流ボイラ (SQ-3000AS×3台)	三浦工業	10年	平成23年2月	相当蒸発量:3000kg/h 熱出力:1.88MW												
LPGタンク (9.9tバルク貯槽)	中国工業	6年	平成23年2月	用途:LPGの貯蔵												

² プロジェクト概要は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC体制等に関することを2ページ以内で具体的に記述してください。

更新前: 換算蒸発量 6000[kg/h]2 台と 4000[kg/h]1 台のA重油焚きボイラ 3 台で熱供給
更新後: 換算蒸発量 3000[kg/h]3 台のLPG焚きボイラで熱供給

- ・ 方法論に準拠し、排出削減量を算定している。

①排出削減量: ER_y

$$\begin{aligned}
 &= BE_y - PE_y \\
 &= 1,515 - 1,119 \\
 &= 396[\text{t-CO}_2/\text{年}]
 \end{aligned}$$

ER_y 年間の温室効果ガス排出削減量(t-CO₂/年)

BE_y ベースライン排出量(t-CO₂/年)

PE_y プロジェクト排出量(t-CO₂/年)

②ベースライン排出量: BE_y

$$\begin{aligned}
 &= BE_{化,y} = FC_{化,PJ,y} \times CV_{化,PJ,y} \times CEF_{化,BL,y} \times \eta_{PJ} \times 1/\eta_{BL} \\
 &= 368 \times 48.26 \times 0.0729 \times 98.0 \times 1/83.7 \\
 &= 1,515[\text{tco}_2/\text{年}]
 \end{aligned}$$

パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠
FC _{化,PJ,y}	プロジェクトにより更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量	368	t/年	別記参照
CV _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量	48.26	GJ/t	低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95
CEF _{化,BL,y}	ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO ₂ 排出係数	0.0729	tCO ₂ /GJ	低位発熱量でのCO ₂ 排出係数 デフォルト値(0.0693)÷0.95
η _{PJ}	プロジェクトにより更新したボイラ装置のボイラ効率	98	%	実測値を使用
1/η _{BL}	ベースラインにおけるボイラ装置のボイラ効率	83.7	%	実測値を使用

$$\begin{aligned}
 FC_{化,PJ,y} &= A\text{重油使用量(KL/年)} \times A\text{重油低位発熱量} \times \text{更新前ボイラ効率} \div \text{更新後ボイラ効率} \div \text{LPG低位発熱} \\
 &= 560(\text{KL/年}) \times 37.145(\text{GJ/年}) \times 83.7\% \div 98.0\% \div 48.26(\text{GJ/t}) \\
 &= 368\text{t}
 \end{aligned}$$

③プロジェクト排出量: PE_y

$$\begin{aligned}
 &= PE_{化,y} = FC_{化,pj,y} \times CV_{化,PJ,y} \times CEF_{化,PJ,y} \\
 &= 368 \times 48.26 \times 0.0630 \\
 &= 1,119[\text{t-CO}_2/\text{年}]
 \end{aligned}$$

パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠
FC _{化,PJ,y}	プロジェクトにより更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量	368	t/年	別記参照
CV _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量	48.26	GJ/t	低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95
CEF _{化,PJ,y}	ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO ₂ 排出係数	0.0360	tCO ₂ /GJ	低位発熱量でのCO ₂ 排出係数 デフォルト値(0.0693)÷0.95

【モニタリング体制】

- ・ 算定責任者を燃料部長とし、業務ごとに算定担当者を定めている。
- ・ 大村果汁工場員、ボイラメーカー等が測定したデータを算定責任者までに 3 次チェックを行うことで収集されたデータのチェック体制を構築している。

【QA / QC 体制】

- ・ 燃料使用量等のモニタリング体制の仕組みの運用状況を年 1 回定期的に監査を実施する。
- ・ 各作業者に対して、役割・責任・権限に対しての研修を実施している。
- ・ 各種データは実施後 3 年間保管することを規定している。
- ・ 各種データ信頼性確保のために、各種センサーの品質維持・精度管理を規定している。

プロジェクト実施場所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 事業所：全国農業協同組合連合会 長崎県本部 果汁食品部 大村果汁工場 住所：長崎県大村市富の原 2-704 JA 全農長崎大村果汁工場						
<方法論 R001・R003 のみ> プロジェクト対象面積							
プロジェクト期間	2011年3月1日 ～2021年3月1日(10年0ヶ月)						
クレジット期間	2011年3月1日 ～2013年3月31日						
プロジェクト計画開始届提出日	2011年1月21日						
妥当性確認終了日	2011年1月24日						
想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂ ³			33	396	396	825
適用モニタリング方法ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (排出削減プロジェクト用) ver. 2. 4						
適用方法論	方法論番号	JEAM011 ver. 1. 2					
	方法論名称	ボイラー装置の更新・燃料転換					
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印

³ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。

<p>公的な報告・公表制度（判明している公的制度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」における報告制度にて、排出削減量を他者に移転した場合には、参考情報として移転内容を記述する。 ・ 本プロジェクトに関わる排出削減量について、他のクレジット制度等での主張はしない。
<p>自主的な報告・公表対象（対象となるホームページ、環境報告書等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国農業協同組合連合会のホームページ、事業パンフレット等には、排出削減量を他者に移転した場合には、自らの排出削減量としては主張しない。 ・ 当該自主的な報告・公表制度において、当該プロジェクトの内容及び当該プロジェクトから創出されるオフセット・クレジット（J-VER）の発行量及び売却量を明記する。 ・ クレジット発行後には、当該クレジットに付属するCO2に係る環境価値の保有を前提とした主張は行わない。
<p>備考欄</p>	
Empty space for the '備考欄' (Remarks) section	

以上